

アジア建築家評議会 (ARCASIA) ACA21 参加報告

2025年9月8日～12日 韓国・仁川

2025年9月8日から12日まで韓国・仁川にて開催されたアジア建築家評議会 (ARCASIA) ACA21について、参加者の方からご報告いただきます。

開催地：韓国・仁川
 期 間：2025年9月8日～12日
 参加者：柳澤要 ACAE委員、竹馬大二 ACPP委員、新居照和 ACGSA委員、櫻井伸 ACSR委員、早矢仕アレマン耕平 ACYA委員、国広ジョージ元 ARCASIA 会長
 学生2名：杉本新奈さん、田中稀乃香さん

スケジュール：
 9月 8日 委員会、Welcome Dinner
 9月 9日 理事会
 9月10日 理事会、AAA Ceremony
 9月11日 基調講演、Opening Ceremony, Architects' Night
 9月12日 基調講演、Friendship's Night

ACA21の概要

竹馬大二 (JIA国際委員会アドバイザー / ACPP委員)



概要

2025年9月8日から12日まで韓国・仁川にて開催されたアジア建築家評議会 (ARCASIA) ACA21 は、「A Better Tomorrow」をテーマに、アジア各国の建築家及び建築団体が集い、共に未来志向の建築・都市・環境のあり方を議論する場であった。日本建築家協会 (JIA) から代表団が参加し、日本国内における設計・監理制度やサステナビリティ対応の実践を共有しつつ、アジア地域での制度・文化・技術の多様性を直接に確認する貴重な機会となった。JIAとしては、アジア建築コミュニティにおいて自らの専門性と社会的責任を改めて位置づけ、国際的な交流機会の深化につながる参加であった。

理事会

ARCASIA 理事会は、9月9日および10日に開催され、加盟団体間の協働方針、委員会活動報告、賞制度・学生設計競技の運営、次回大会開催地などが議題とされた。JIAからは、テーマに上がった「建築行政における建築家の役割」に対して、横



Welcome Dinner 参加者の集合写真



理事会の様子

浜市の都市デザイン室の活動を紹介した。韓国では自治体により Chief Architectが外部から任命され、公共建築のコンペ審査や設計者選定、都市景観の整備に関する役割を負っているとのことで、社会に対する建築家の地位向上の参考になる事例であった。なお、次回大会 (第22回大会：ACA22) はパキスタン・ラホール (Lahore) にて2027年に開催されることが決定された。

(ちくば だいじ / 日建設計)

建築教育委員会 (ACAE)

柳澤 要 (JIA国際委員 / ACAE委員)



第45回アルカジア教育委員会 (ACAE) は2025年9月8日 (月) 10:00～16:00に開催された。委員会には加盟22か国中16か国が参加した。通常は前年度の活動報告 (組織体制、大学の建築教育、教育認定、研究・教育、講演会・セミナー国際会議、学生コンペ、出版・展示など) を行うが、前年度の第44回教育委員会が2025年1月14日に延期になり半年しか経過していないということで、今回は「Designing the 2040 Architect: Competencies for a Changing World」をテーマに各国の提案・報告がなされた。さまざまな意見や提案があったが、未来に向けてのアジア建築教育のマニフェスト (デジタル技術の活用、さまざまな専門家との

協力、サステナブルデザイン、インクルーシブデザイン、倫理面の重視、グローバルな視野など) としてまとめられ承認された。

(やなぎさわ かなめ / 千葉大学)



ACAE 集合写真

職能委員会 (ACPP)

竹馬大二 (JIA国際委員会アドバイザー / ACPP委員)

本大会において、ARCASIAの専門委員会である Professional Practice 委員会 (ACPP) は、アジア地域における建築家の実務環境・資格制度・倫理および技術協働の現状を中心議題に議論を

行った。特に、国境を越えた設計・監理の共同実践、若手建築家の参画促進、デジタル変革 (DX) における AI の導入、環境規制強化への対応、さらに設計契約や業務スコープの国際標準化の必要性が焦点となった。ACPP は今後、アジア域内における建築プロフェッションの質的向上と連携強化を図るための基盤構築を推進するものである。(ちくば だいじ / 日建設計)

グリーン・サステナブル建築委員会 (ACGSA)

新居照和 (ACGSA委員)



テーマは「明日を築く：気候、コミュニティ、テクノロジーの交差点にある建築」。

気候変動対応・地域共生・技術革新を柱に、アジア各国の持続可能建築の方向性を共有する。バングラデシュは気候適応型・地域参加型建築、タイはグリーンファイナンスと脱炭素化、デジタルツインと BIM。インドは自然共生とスマート技術、インドネシアは循環型経済と地域知、教育改革を重視。マレーシアは都市再生と社会的格差是正、香港はスマートシティ構想、AI と BIM。シンガポールは 2030 年までに全建築の 8 割にするグリーン化政策。フィリピンは竹建築や炭素回収技術。パキスタンは在来素材と植林運動、韓国は ZEB 建築と AI によるデジ



ACGSA 集合写真

タルツイン都市など、16 か国から発表があった。

全体として、「持続可能」から進み、地域社会と自然が共生する「回復的・再生的建築」へと転換しつつあった。

(にいてるかず / 新居建築研究所)

建築家の社会的責任委員会 (ACSR)

櫻井 伸 (JIA国際委員 / ACSR委員)



2025 年 9 月 8 日に韓国・仁川で開催された ARCASIA ACA21 の ACSR (建築家の社会的責任) 委員会に参加した。委員会には加盟国 22 か国のうち、Web 参加 1 か国を含み 18 国が参加した。

委員会の冒頭、今年 1 月にスリランカ・コロンボで開催された Forum22 で“Charter on Social Responsibility (ACSR 憲章)”が承認されたこと、4 月末にタイ・バンコクで開催された ACSR WORKSHOP の報告が行われた。

Forum22 に引き続き、Marginalized Community (孤立したコミュニティ) をテーマとして、参加国から具体的なプロジェクトについて報告が行われた。貧困、災害対策・災害復興、地理的孤立、性的差別、都市開発によるスラム化など、それぞれの国の抱える問題はさまざまであり、紹介されたプロジェクトについてもシェルターから都市計画まで多岐にわたっていた。

また、もう 1 つのテーマである Universal/Wellness Design



ACSR 集合写真

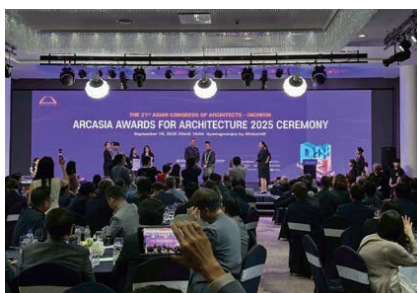
については、ACAE との協働により学生を対象とした Design Competition の開催を決議し、その実施内容について議論を行った。この Competition に関するイベントは今年末から来年早々にインドネシアで開催される予定である。

(さくらい しん / 久米設計)

● AAA Ceremony

9 月 10 日、AAA Ceremony (アルカジア建築賞授賞式) が行われました。

そのなかで Student Design Competition の表彰も行われ、日本からは、Student Jamboree にも参加した杉本新奈さん (千葉大学) がファイナリストに選出され、表彰されました。



AAA Ceremonyの様子



杉本新奈さん (表彰者の右から 2 番目) が Student Design Competition のファイナリストに選出

若手建築家委員会 (ACYA)

早矢仕アレマン耕平 (JIA 国際委員 / ACYA 委員)



各国の若手建築家で構成される ACYA 委員会は、2025 年 9 月 8 日に開催された。加盟 22 개국中 15 개국が参加し、「若手建築家の建築における包括性と多様性への関与」を主題として、作品や研究、若手支援の取り組みが紹介された。

なかでも、タイ王立建築家協会による若手国際発信プラットフォーム構想、マレーシア建築家協会の若手出版支援制度、シンガポール建築家協会と ACYA の共同 SNS プロジェクト、インドネシア建築家協会のメンタリングプログラムなど、若手を積極的に育成・発信しようとする姿勢が特に印象深かった。各国の状況は異なるものの、若手育成への意識は共通しており、こうした取り組みは、近年若手会員が減少が課題となっている



ACYA 集合写真

JIA にとっても多くの示唆を与えるものであった。

(はやしあれまん こうへい／早矢仕アレマン建築アトリエ)

展示

柳澤 要 (JIA 国際委員 / ACAE 委員)

展示会は3日目の2025年9月10日から松島コンベンシアコンベンションセンターのホール1で開催された。

展示内容は、ARCASIA Awards for Architecture, ARCASIA Students' Design Competition, TOY (ARCASIA Thesis of the Year), ARCASIA Ar. Barry Will Award, Green ASIARCHの各受賞および最終選考作品、各国建築家協会からの報告などで、韓国の子どもたちが作成した未来の建築模型の展示もあった。JIAからは3点(伊藤瑞貴「h+BASE」、藤原徹平「CHIDORI TERRACE」、早矢仕アレマン耕平「Two Houses in Wiesendangen」)が出展された。

(やなぎさわ かなめ／千葉大学)



17年ぶりの韓国開催とARCASIAの精神

国広ジョージ (元 ARCASIA 会長)



2025 年 9 月 8 日から 12 日、韓国・仁川でアジア建築家評議会 (ARCASIA) の大会「ACA21」が開催された。元 ARCASIA 会長として公式に招かれ、JIA 佐藤会長を団長とする日本代表団と共に参加した。韓国での開催は 2008 年 10 月以来、17 年ぶりである。会場は首都ソウルではなく仁川であったため、華やぎは控えめで、滞在は主にホテルと会場の往復となった。

とりわけ印象に残ったのは山本理顕氏の講演である。代表作の紹介に加え、現在取り組むベネズエラのバリオ再計画につい

て熱く語った。その最中、突然私が名指しで壇上に呼ばれ、国際バリオシンポジウムのイベントまとめ役を任せたいとの提案を受ける一幕があった。実現には至らなかったが、会場のどよめきとともに私自身も大いに驚かされた。

ARCASIA の精神は「One Family」に象徴される。最終日に開催される恒例の「フレンドシップナイト」では、加盟 24 団体のうち出席した各団体が演目を披露し、JIA は阿波踊りをファレル・ウィリアムスの「Happy」に合わせて披露した。こうして 2025 年の大会は、熱気に包まれたフレンドシップナイトで幕を閉じた。

(くにひろ じょーじ／プランテック)



山本理顕氏の講演



フレンドシップナイトで JIA は阿波踊りを披露